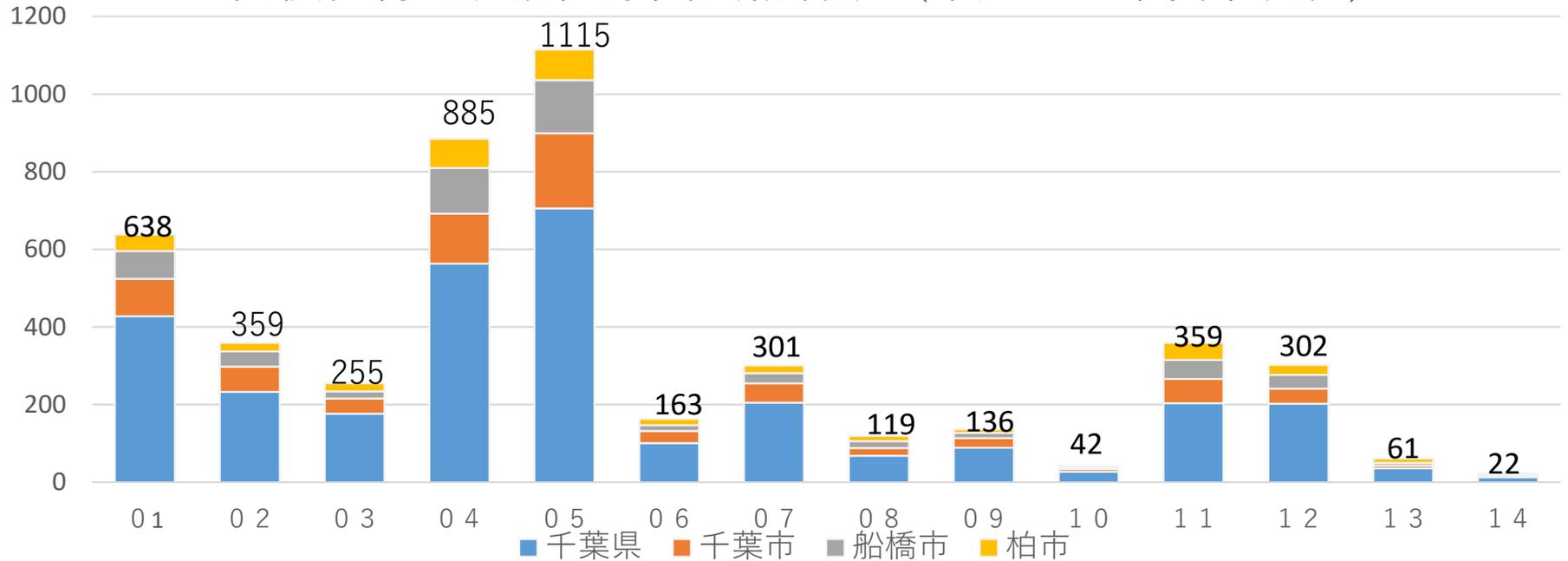


慢性疾病児童の「就園・就学」、「復園・復学」 に向けた支援について

医療費受給者数について

小児慢性特定疾病医療費受給者数（平成29年度末現在）



1 悪性新生物、2 慢性腎疾患群、3 慢性呼吸器疾患群、4 慢性心疾患群、5 内分泌疾患群、
6 膠原病、7 糖尿病、8 先天性代謝異常、9 血液疾患群、10 免疫疾患群、11 神経・筋疾患群、
12 慢性消化器疾患群、13 染色体又は遺伝子に変化を伴う疾患群、14 皮膚疾患群

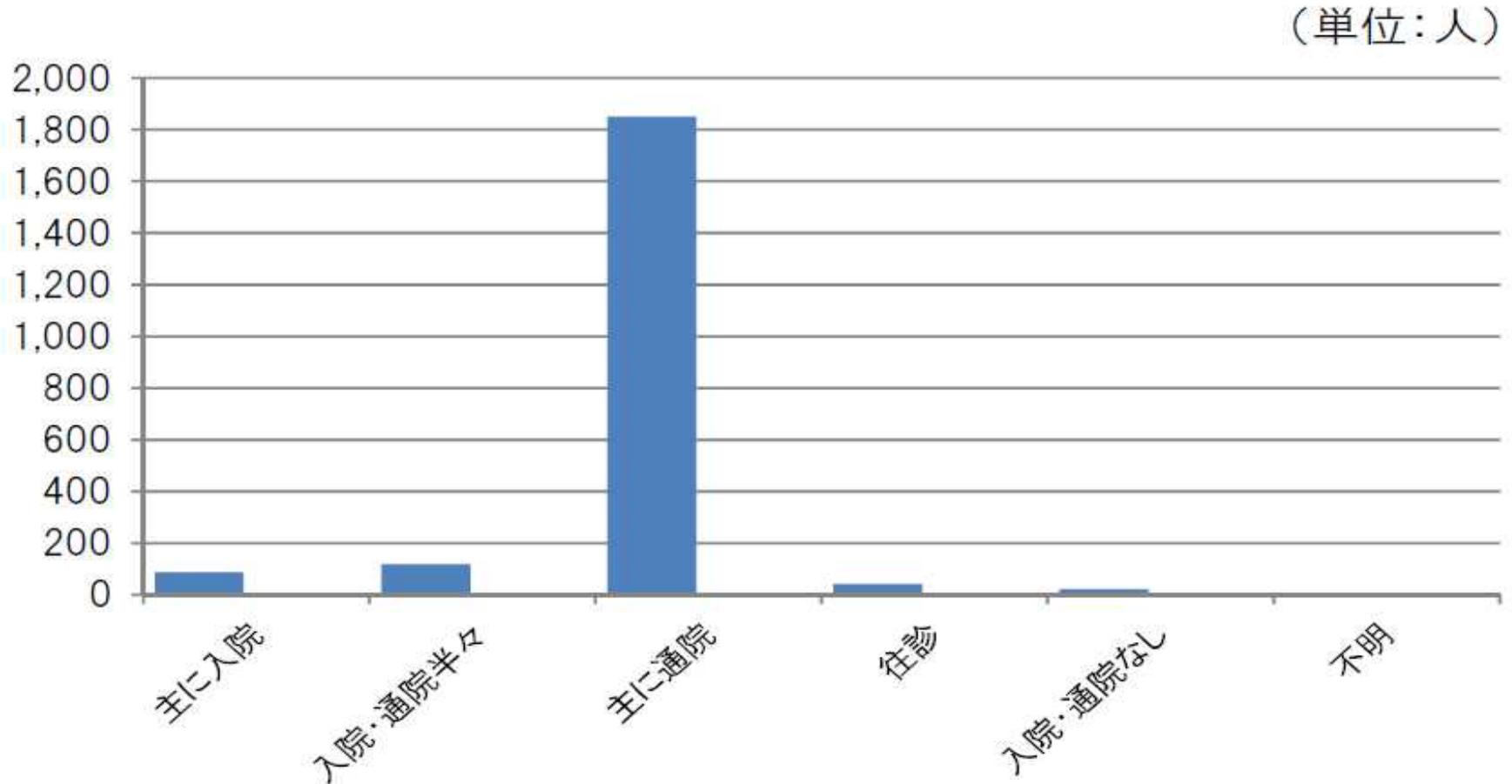
※各実施主体でとりまとめた受給者数をもとに作成。

※複数疾患で受給している者については、主疾患で集計。

※平成30年4月から骨系統疾患、脈管系疾患の2疾患群が追加となり、16疾患群に拡大されている。

小児慢性患者の療養・生活状況について

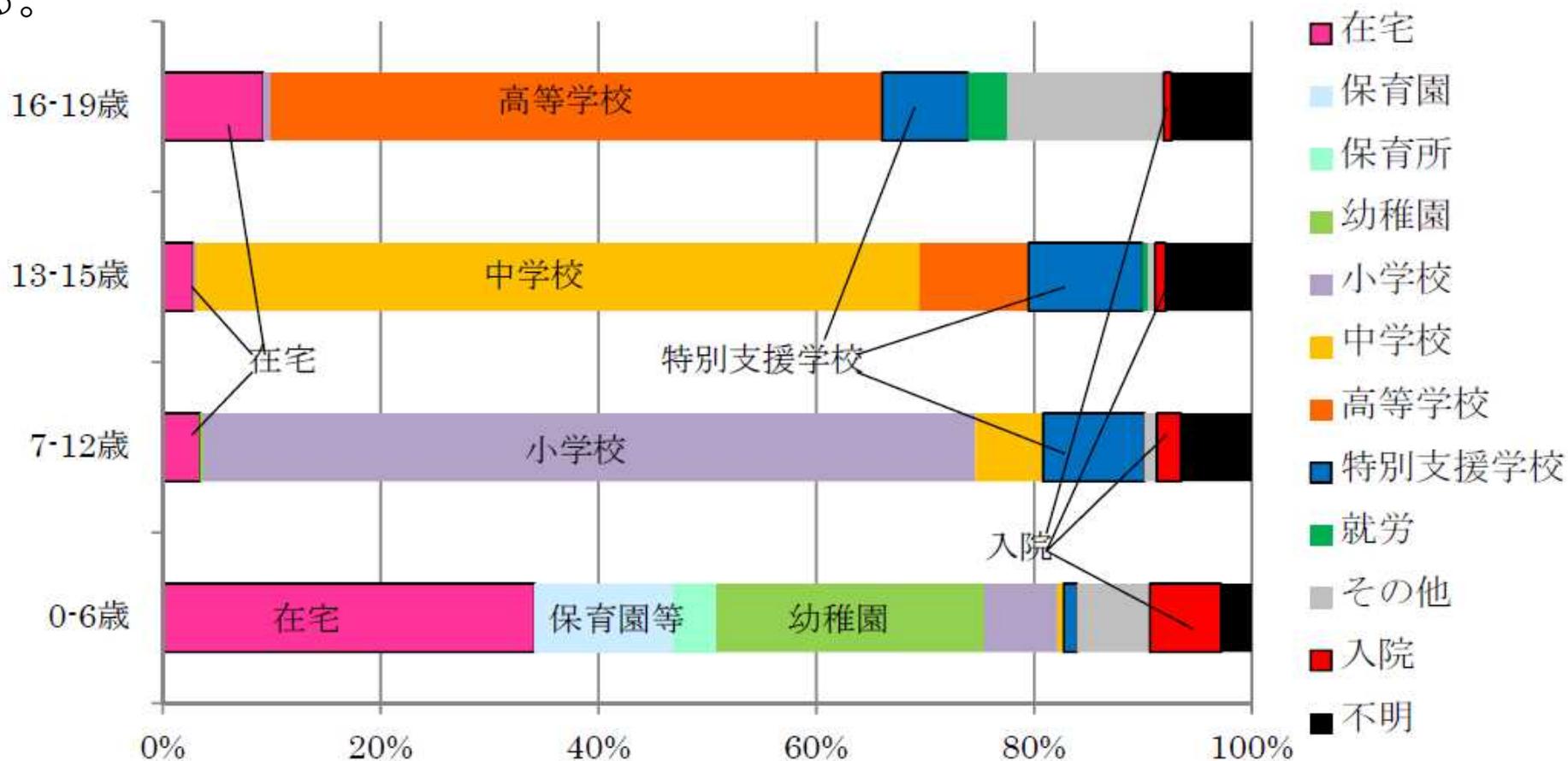
受給者の受診状況は、「主に通院」が大半を占め、86.2%であり、「主に入院」と「入通院が半々」を合わせて9.5%であった。また、往診を受けている者は2.0%であった。



(n=1,228人、複数回答)

小児慢性患者の療養・生活状況について

幼児期は幼稚園、保育園等に所属しない割合が高く（34.1%）、入院の割合も高い。（6.5%）7歳以降は特別支援学校に所属する者が8～10%の割合でいるが、乳幼児期より入院の割合も減少し（0.7～2.2%）多くが小・中・高等学校へ通っている。



(n=1,228人、複数回答)

小児慢性患者の療養・生活状況について

- 小児慢性患者の通院状況は約 9 割が主に通院で治療を継続している。
- 病気の子どもの多くが通常学級に在籍している。

参考

特別支援学校在籍者数 (病弱・虚弱) 小～高	特別支援学級在籍者数 (病弱・虚弱) 小～中
119人 (H29.5.1現在)	10人 (H29.5.1現在)

→通常学級に在籍する病気の子どもの中でも、特別な指導や支援を必要とする子どもがいると考えられる。

※特別支援学校では、病気の自己管理能力を育成する「自立活動」の時間が設けている。

就園・就学に関する主な不安について

『授業や遠足・給食・部活動等への支障』が一番多く、回答者数の22.6%からの回答を得た。続いて、学校や友人の理解が得られにくく、説明に苦慮しているが15.8%であった。

